

(4) まとめ

水環境団体は、「自然を大切に」という意識が強いようである。人間の活動が自然環境へどれだけ影響を与え、与えられているかについて最も関心があり、環境市民団体の特徴が読み取れる。

4-1-6 行政からみたクリークの環境社会システム構造

(1) 中心度にみる行政の特徴

表 4-5 を見ると、「生物の生息」、「祭りや行事」、「堀干し」、「泥土揚げ」の中心度が高いことが分かる。

これは、現代のクリーク地帯の問題である、佐賀平野の貴重な生物資源の保全や、「堀干し」、「泥土揚げ」など、クリークの維持管理問題が顕著になってきていることが表われていると考えられる。また、佐賀の文化である「祭りや行事」を残しながら、イベントとして行うなどの試みも為されている。

表 4-5 行政の項目別影響度

項目	直接影響効果		間接影響効果		総合影響効果			
	影響度	中心度	影響度	中心度	影響度	中心度	原因度	
1. クリーク	63.5	73.0	0.599	0.634	2.537	2.809	5.346	-0.272
2. 水田	34.0	36.5	0.358	0.424	1.476	1.673	3.149	-0.198
3. 山	13.5	2.5	0.150	0.023	0.613	0.095	0.708	0.518
4. 川	32.0	37.5	0.303	0.326	1.301	1.449	2.750	-0.148
5. 有明海	32.0	29.0	0.305	0.276	1.322	1.170	2.492	0.152
6. 生物の生息	52.5	56.0	0.506	0.517	2.150	2.235	4.386	-0.085
7. 農業における用水・排水	49.5	40.5	0.499	0.392	0.074	1.647	1.720	-1.573
8. 稲作	45.0	33.0	0.460	0.402	1.919	1.557	3.476	0.363
9. 稲作以外の生産活動	36.5	41.0	0.387	0.446	1.585	1.834	3.419	-0.249
10. 生活における用水・排水	35.0	28.5	0.368	0.326	1.519	1.280	2.798	0.239
11. 郷土料理	32.5	32.0	0.353	0.376	1.440	1.498	2.938	-0.058
12. 祭りや行事	38.0	61.0	0.384	0.581	1.595	2.519	4.114	-0.924
13. 堀干し	42.0	56.0	0.435	0.561	1.786	2.377	4.164	-0.591
14. 泥土揚げ	55.0	54.5	0.531	0.552	2.253	2.308	4.561	-0.055
15. スクメの設置	30.0	39.5	0.343	0.456	1.362	1.826	3.187	-0.464
16. 子供の遊び	24.5	11.5	0.294	0.146	1.176	0.561	1.737	0.616
17. 伝説・言い伝え	26.0	17.0	0.275	0.196	1.163	0.793	1.956	0.371
18. 集落内でのつながり	46.5	50.5	0.466	0.488	1.950	2.093	4.043	-0.144
19. 近隣の集落とのつながり	26.0	28.5	0.271	0.313	1.122	1.278	2.400	-0.156
20. 外部地域とのつながり	31.5	15.5	0.341	0.206	1.423	0.773	2.196	0.651
21. 行政	23.5	25.5	0.247	0.236	1.022	1.041	2.063	-0.019

各影響度・中心度の上位5項目

原因度の上位3項目

原因度の下位3項目

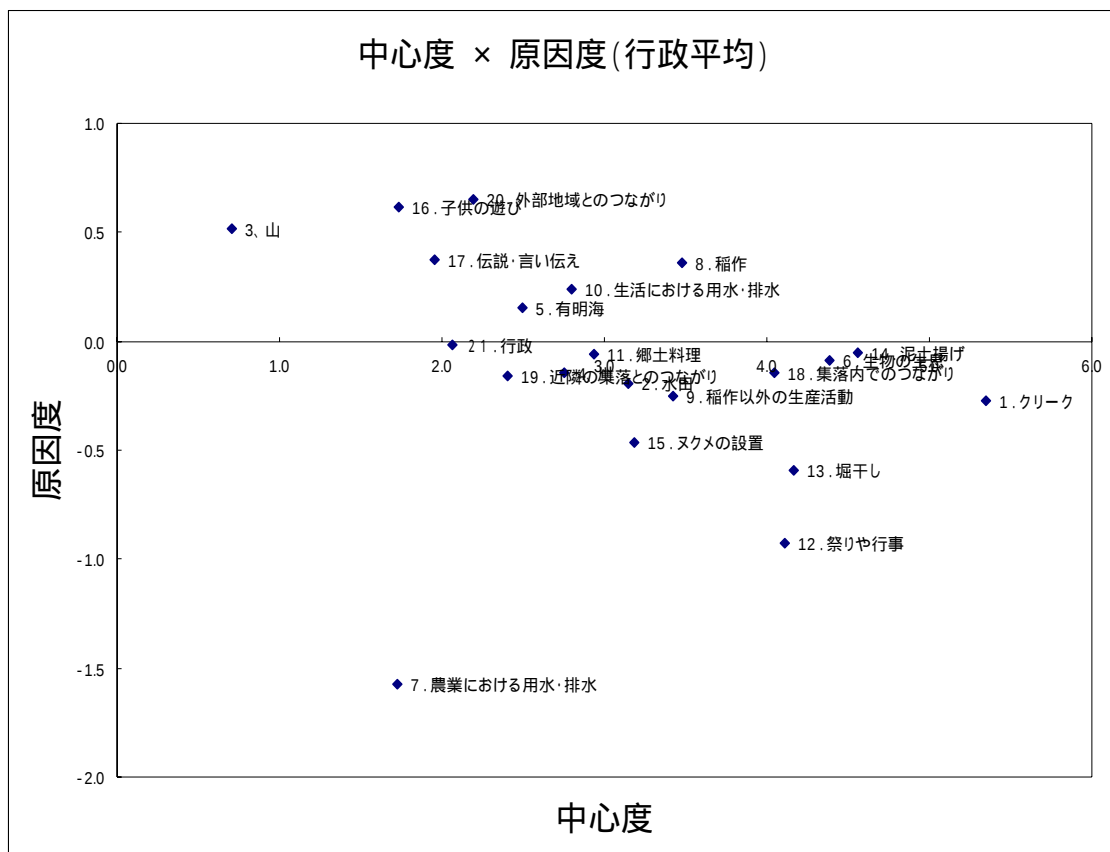


図 4-13 中心度と原因度による要素関連図 (水環境関係団体)

(2) 各項目の最大影響度に見る関連性

図 4-14 をみると「生物の生息」、「堀干し」にそれぞれの項目が最も他の項目に与える影響が集中していることがわかる。

「生物の生息」は、「山」、「川」、「有明海」、「堀干し」が最も影響を与える項目である。「山」、「川」、「有明海」は、生物が生息する場であり、行政の事業とはいつでもこの観点から問題視される。また、「堀干し」は、ヌクメ開きからであるが、ひょうたん島公園にはヌクメが設置してあり、イベントでヌクメから魚を捕ったことから意識されていると考えられる。

次に「堀干し」は、「生物の生息」、「稲作以外の生産活動」、「農業における用水・排水」、「郷土料理」、「生活における用水・排水」、「子供の遊び」、「祭りや行事」、「ヌクメの設置」、「外部地域とのつながり」が最も影響を与える項目である。これらの項目は、以前の泥土揚げにおける関係において影響関係があったことや、イベントとして行うことで発生すると期待されていることであり、今後こうなってほしいという理想や可能性が込められているのではない。

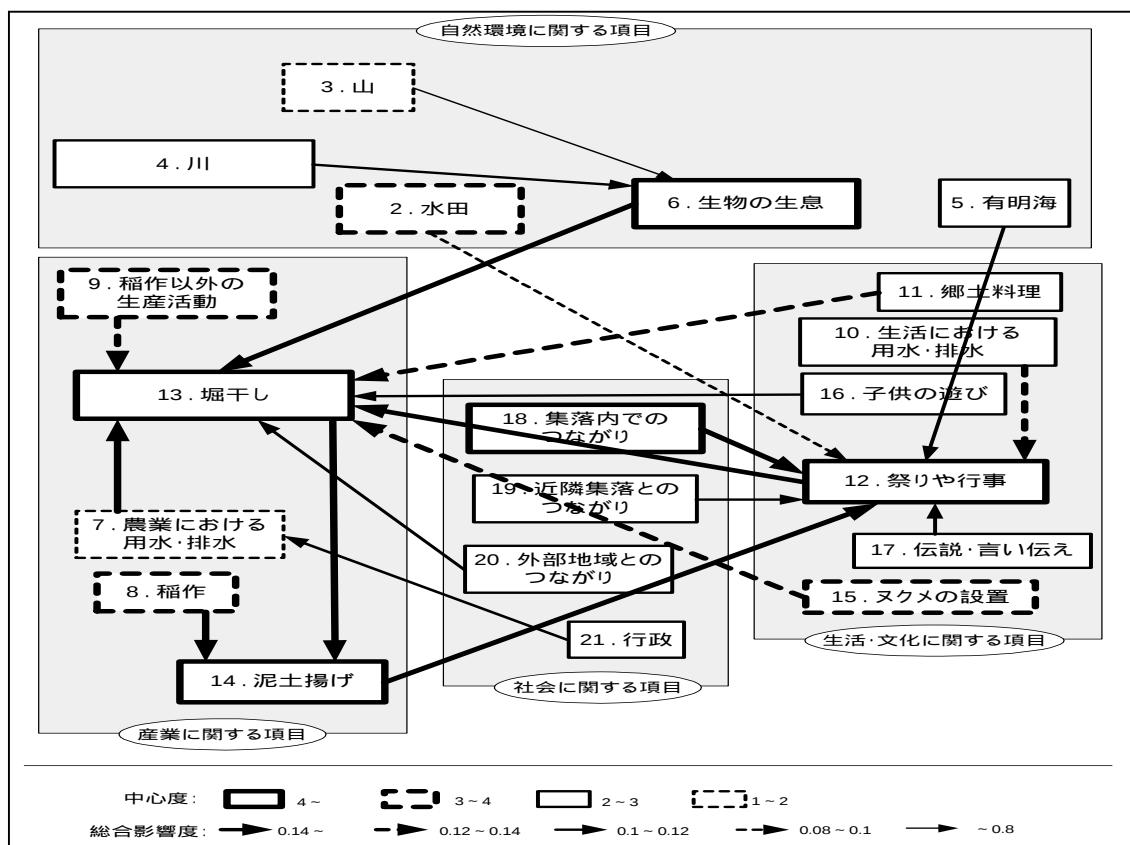


図 4-14 行政の DEMATEL 調査による各項目の最大影響度に関する
佐賀平野におけるシステムの要素関連

(3) 各項目の最大被影響度に関する関連性

図 4-15 をみると「生物の生息」、「泥土揚げ」にそれぞれの項目が最も他の項目に与えられる影響が集中していることがわかる。

「生物の生息」は、「有明海」、「郷土料理」、「生活における用水・排水」、「子供の遊び」が最も影響を与えられる項目である。「有明海」における「生物の生息」は、生活や農業における排水に影響を与られている。現代では、クリークや川の汚濁が「有明海」における問題へともつながっている。「郷土料理」は、佐賀平野の郷土料理はクリークの生物を使ったものが多いためにこのような評価になったのであろう。また、現代のクリークや川では、泳ぎが禁止されているが、「川」で釣をする子供は多い。

また、「泥土揚げ」は、「水田」、「生物の生息」、「農業における用水・排水」、「稲作」、「祭りや行事」、「堀干し」、「ヌクメの設置」、「集落内でのつながり」、「近隣集落とのつながり」、「外部地域とのつながり」、「行政」が最も影響を与えられる項目である。「水田」、「農業における用水・排水」、「稲作」、「堀干し」は、泥土揚げの最大の目的として重要であり、行政はクリークの浚渫問題を抱えているためである。「泥土揚げ」において魚取りをすること

が重要な目的であったため「生物の生息」、「ヌクメの設置」が影響を与えられ、また、「泥土揚げ」自身が重要な年中行事であった。また、クリーク公園で行われたように、イベントとしての「泥土揚げ」の可能性がある、それは「集落内でのつながり」、「近隣集落とのつながり」、「外部地域とのつながり」を深めることができる可能性があるため、評価が高くなったと考えられる。

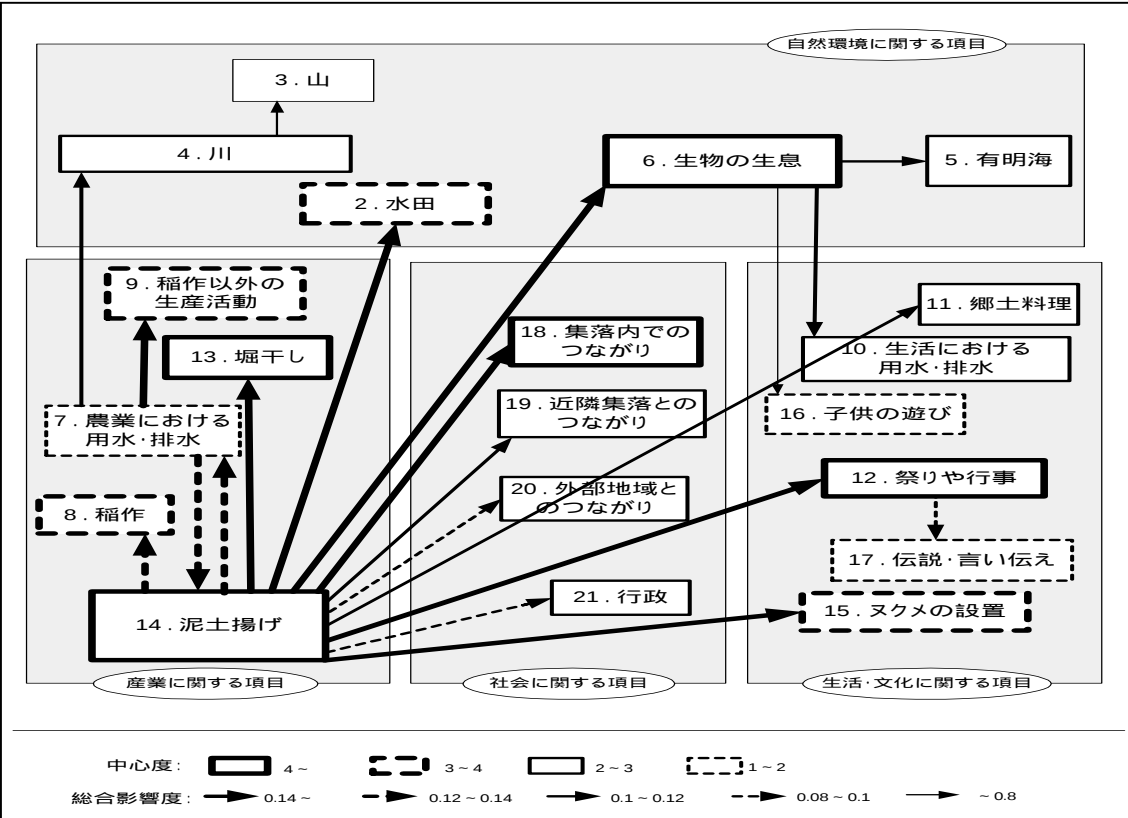


図 4-15 行政の DEMATEL 調査による各項目の最大被影響度
佐賀平野におけるシステムの要素関連

(4) まとめ

現在、行政の事業による「生物の生息」へ与える影響が懸念されていることや、圃場整備やクリーク統廃合の事業後の現在の問題として、クリークへの泥土の堆積問題がある。これを、行政にどうにかしてもらいたいという意見が多いため、泥土の浚渫問題に頭を抱えている。そのため、戦前までは行われていた「泥土揚げ」が重要視されていると考えられる。